

行政評価(案)について

令和8年度 第2回長野市行政改革推進審議会

令和8年7月9日(木)

総務部総務課

FEEL NAGANO,
BE NATURAL

この街で、わたしらしく生きる。長野市

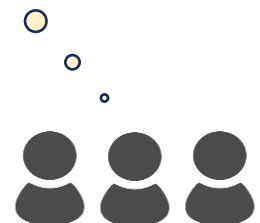
(1) 行政評価に関する主な意見 ①

ア 評価制度の全体像と目的、役割

- ① 今後は市民（施策レベル）と職員（事務事業のコスト・効率性）のハイブリッド評価を提案する。
- ② 従来の行政評価に政策評価を加えることで、市民の声をより反映する仕組みとして分かりやすく説明できる。
- ③ 総合・政策評価の部分は説明責任。施策・事務事業評価の部分は計画や予算の進捗管理を担うため、内部評価の比率が高いのも理解できる。
- ④ 役割分担も明確で総合計画へのフィードバックにもつながる。
- ⑤ 3つの視点のうち、有効性は評価目的ごとに整理でき、効率性は主にマネジメント評価で把握しやすい。
- ⑥ 予算編成時の自己点検は事前評価として機能し、その後のマネジメントにも繋がる。
- ⑦ 市民は必ずしも評価に細かな内容を求めているのではないか。
- ⑧ 具体的な実績（統計数値）は、市内部で把握・整理しておく必要があるのではないか。

イ 評価の視点

- ① 評価を「成果・市民の実感」に引き上げることで、回答率・質が向上するのではないか。
- ② アウトカムは段階的に捉えるべきで、アウトプットから中間成果を経て最終目的に至る。
- ③ 事務事業評価にはアウトプットのみ設定し、成果指標は施策評価に一元化することに賛成
- ④ 予算編成時の自己点検とするアウトプットの内容も見直したらどうか。



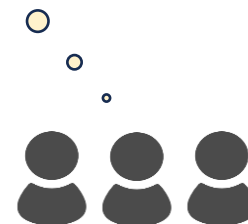
(1) 行政評価に関する主な意見 ②

ウ 評価の運用と持続可能性・効率性

- ① 中長期の住民アンケートについては、評価の視点や基準を定めた「評価ポリシー」の整備が重要
- ② 期待どおりの結果が出なくても、評価ポリシーがあれば説明責任を果たすことができる。
- ③ 評価制度を持続可能にするには効率性が問題で、無駄なく回っているかが重要
- ④ 負担軽減のため評価を縮小していかなければ、長く続けるのは難しいのではないか。

エ 評価結果の活用と実効性の向上

- ① 市民の実感スコアが低い施策が明確になれば、予算再配分や事業統廃合がスムーズに進むのではないか。
- ② 低評価の項目は追加調査を行い、テーマ別評価等で原因を深掘りすべき。
- ③ 評価結果をどう扱うかを決めた方が良いのではないか。
- ④ 評価の結果が出ても次に何をすべきかが明確でないため、市民は興味を持って見るができないのではないか。
- ⑤ 過去の評価と予算を紐付けることで説明責任は果たせるのではないか。評価から行動への道筋が見えることが重要
- ⑥ 評価の実効性を高めるには、スピーディーに反映できる仕組みを考えていくことが必要



(2) 市民意見聴取(アンケート指標)に関する主な意見

ア 方法

- ① 貴重な意見が得られるテキストデータも積極的に収集すべき。
- ② オンラインや対面ヒアリングも含めて進めないと、実態と結果が乖離してしまうのではないか。
- ③ 特定の層の方々によるワークショップの実施など、様々なやり方を検討すべき。
- ④ 外部委託やAI・オンラインも活用すべき。一方、紙媒体を希望する人への配慮も必要
- ⑤ 主観指標はインフォーマルインタビューなど柔軟な方法が可能。住民の声をきちんと拾うことが重要

イ 対象

- ① 少数派の声も拾うため、評価対象を限定せず幅広く住民意見を収集することが重要
- ② 学生に長野市について考える機会を設けるなど、多様な声を聴く工夫も必要ではないか。
- ③ 高齢者のサロンなど、特定の場で質問を絞ってアンケートを取る方法も傾向がつかめるのではないか。
- ④ 多様な意見を把握することは重要であり、労力はオンラインやAI分析で解決可能。何を測るかという目標設定が重要
- ⑤ 地域を限定して調査した方が生の声が聴けるのではないか。
- ⑥ デジタル対応が難しい高齢者の意見を拾う方法も考えてほしい。

ウ 課題

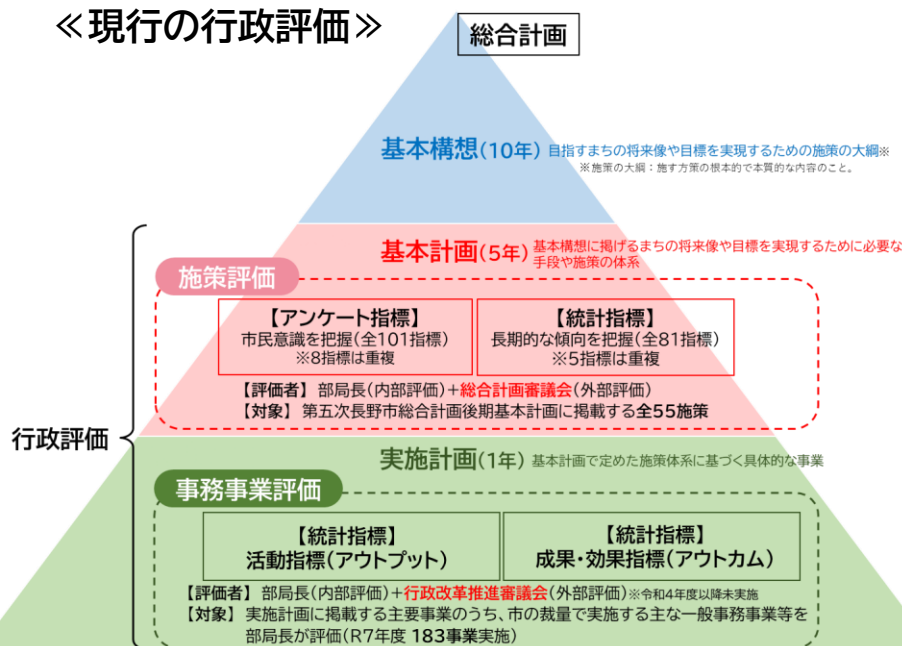
- ① 100を超える評価項目では、「わからない」との回答が増え、アンケート放棄の原因になるのではないか。
- ② 最終的な総合評価をアンケートで行うと、回答者の主観による偏りが生じる可能性がある。
- ③ 全住民アンケートは世帯単位だと意見が偏る可能性がある。
- ④ 評価基準は人それぞれで「このまちは良い」で100点、「だめ」で0点でも構わないのではないか。



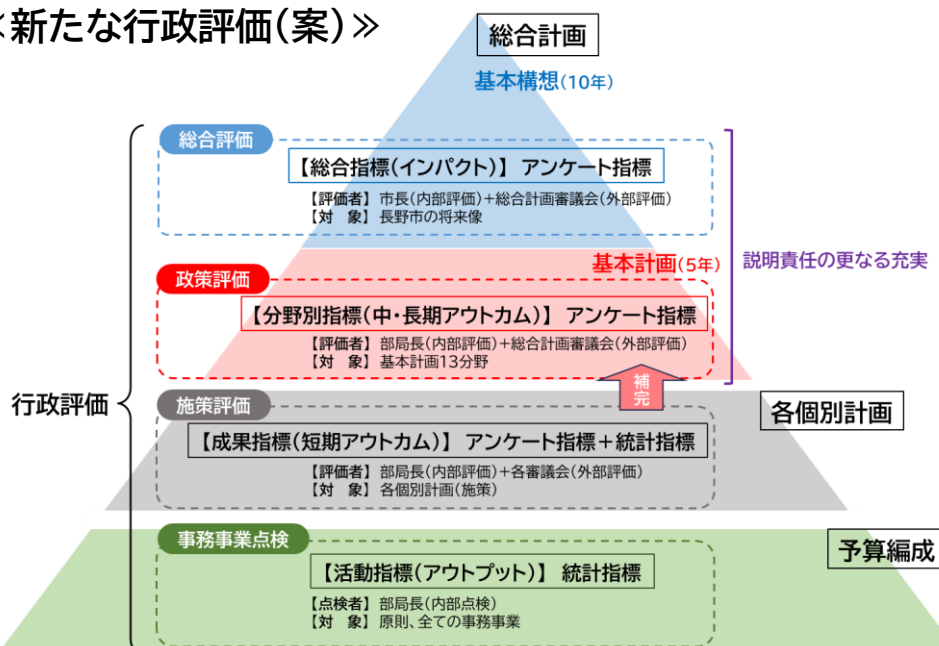
2 現行の行政評価の見直しのポイント

5

≪現行の行政評価≫



≪新たな行政評価(案)≫



現行制度の現状と課題

指標の数が多く重点が分かりにくい上、管理の負担も大きい

評価が形式的な作業にとどまり、予算編成や事務事業の見直しに十分に活かされていない

評価の事務作業が職員の負担になっている

行政評価をもって市民への説明責任を十分に果たすことは難しい

見直し後

- ・指標数をスリム化
アンケート指標101、統計指標81 ⇒ アンケート指標20～30程度(総合計画審議会による評価)
- ・総合計画と個別計画で役割を分担
総合計画:総合評価、政策評価 各個別計画:施策評価 予算編成時:事務事業点検

事務事業評価を予算編成時の自己点検へ

- ・事務事業点検では活動指標(アウトプット)を確認
- ・指標数をスリム化(再掲)
- ・事務事業評価を予算編成時の自己点検へ(再掲)

市民への説明責任の更なる充実を図るため、市民の「幸福度」、「満足度」、「安心感」など、成果の実感を重視した「総合評価」「政策評価」を新たに創設

≪体系図≫

